令和７年９月１日

定時制　２学期終業式　式辞

　皆さんこんにちは。今日から２学期がスタートします。夏休み期間中、就業・アルバイト、部活動全国大会、４年生は進路希望実現に向けた取り組みなどがあったと思います。

事故等に十分気をつけるとともに、毎日の生活のリズムを大切に、心身ともに健康な学校生活を送ってほしいと思います。何か、困ったことや悩みがあれば、一人で抱え込まず、先生に是非相談してください。

　さて、今年は戦後８０年目となる年でした。私を含め、戦争の惨禍を知らない世代にとって、戦争で何が起きていたかについて、知ることは大切であると思っています。

　７月に、関西、東京で皆さんの先輩にあたる大分工業高校同窓会の豊工会の会議に出席し、昭和３５年前後の８０～８５歳くらいの方のお話を聞くことができました。その中で、「同級生の中に、父親が戦死してされた方もいた。」という話を聞きました。当時、いきなり一家の主を失う、どん底の家計の中、苦学して学んでいたこの事実、私は言葉を一瞬失いました。

　大分工業高校の１００周年記念誌を拝見すると、昭和１９年に機械科の５年生の生徒３３名が学徒動員されたという記述を見つけました。昭和１９年４月１７日から昭和２０年３月２４日まで１年間、臼杵市の臼杵鉄工所で勤務したそうです。当時の臼杵鉄工所は第１工場で砲弾、爆弾、魚雷部品などと共に木造船を、第２工場では、船のエンジンなどを製造する大軍需工場で、他に建築科の４年生と臼杵高等女学校の生徒が動員されていたそうです。動員中は、朝５時半起床、６時半に工場で朝食、朝７時から午後４時まで作業。午後５時夕食、午後６時から７時まで１時間だけ授業、午後７時～９時まで自習、９時消灯という日課だったそうです。この１年間は授業がほとんど行われなかったため、４年制であるが５年間高校に在籍された様です。

　その生徒の皆さんの卒業式が３月２７日に行われたそうですが、どんな卒業式だったか。式が始まり校長式辞が終わり、そして間もなく空襲警報が鳴ったそうです。直ちに全員避難。幻の卒業式となったとのことです。ある卒業生の方は、卒業証書は各自バラバラで、卒業証書の授与ができないまま、学友との別れ言葉もそこそこに名古屋、大阪、長崎、熊本などの軍需工場へ就職していったが、長崎へ就職した学友１名が原爆の犠牲となったと書いています。

　また、別の卒業生の方は、学友が学徒動員で舞鶴工場と高城工場に２分され動員された。舞鶴工場に動員された私は、通勤距離の関係で高城工場の勤務の学友と勤務場所を交代した。その後、舞鶴工場が空襲された。その際、学友が死亡したと聞いた。自分と勤務場所を交代した学友が死に、計り知れない複雑な心境になった。

　戦争で何が起きていたか、皆さんに想像したり、考えてほしいので、皆さんに紹介しました。当たり前の平凡な日常がいかに貴重なものであるか、考えさせられます。日本人として、そのような事実があったことを忘れないでほしいと思います。

　最後になりますが、工業を学んでいる生徒の皆さん一人ひとりは貴重な存在であると思います。

　１学期の終業式で、「日本の高校生は定時制・通信制を含めると３００万人。その中で工業を学んでいる生徒は２０万人しかいない。九州では３万４千人、県内では１２００人。そして、２０年後、１５歳から６４歳までの労働生産人口は１，５００万人減少。技術に修得に時間のかかる工業を学ぶ皆さん一人ひとりは貴重な存在だ」という話をしたと思います。

　そして、身近な電気、水道、ガス、建物、道路、環境など、インフラを維持すること、製造業で先端のものづくりにかかわることなど、皆さんを求めている世界がたくさんあり、これらの人や社会に役立つ世界で、皆さんが活躍できるステージはたくさんあると話しました。

　人は慣れると誰でも甘えが出てくるものですが、それは、自らのためになりません。立派な大人はそこをうまくコントロールできている人だと思います。そのためには、共感できる仲間の存在が大変大切ではないかと思います。

　甘えを乗り越えられる自立心を身に付け、持ち前の素直で謙虚な姿勢を忘れず、２学期も前向きに頑張ってください。